

COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

コニシ

4956 東証 1 部

[企業情報はこちら >>>](#)

2018 年 12 月 26 日 (水)

執筆：客員アナリスト

寺島 昇

FISCO Ltd. Analyst **Noboru Terashima**



FISCO Ltd.

<http://www.fisco.co.jp>

目次

■ 要約	01
1. 2019年3月期第2四半期の業績動向	01
2. 2019年3月期の業績見通し	01
3. 新中期経営計画 2021	01
■ 事業概要	02
1. 主要な事業セグメント	02
2. 市場シェアと競合企業	04
3. 特色、強み	04
■ 業績動向	05
1. 2019年3月期第2四半期の業績概要	05
2. 2019年3月期第2四半期のセグメント別状況	07
■ 今後の見通し	11
1. 2019年3月期の業績見通し	11
2. 設備投資額と減価償却費	12
■ 中長期の成長戦略	13
1. 新中期経営計画を発表	13
2. セグメント別目標	13
3. 主要な投資案件	16
■ 株主還元策	17

要約

新中期経営計画で2021年3月期営業利益86億円を目指す

コニシ <4956> は、「ボンド」ブランドで知られる国内トップクラスの接着剤・シーリング材メーカーである。一般家庭用が有名であるが、産業用、住宅・建材用、建築・土木用と幅広い製品をそろえており、主たる市場は住宅・建築・土木関連である。

1. 2019年3月期第2四半期の業績動向

2019年3月期第2四半期の業績は、売上高63,023百万円(前年同期比4.5%増)、営業利益2,866百万円(同5.6%減)、経常利益2,972百万円(同2.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益1,810百万円(同5.7%減)となった。前年同期比で微減益となったが、期初計画値に対してもやや下回った。全セグメントで増収となり、需要面では比較的好調であったが、原油価格の上昇に伴い原材料価格が上昇し減益となった。減益の要因が需要や販売の低迷によるものではなく、原材料価格の上昇であったことから、全体的な結果としてはまずまずの決算だったと言える。

2. 2019年3月期の業績見通し

2019年3月期の業績は、売上高135,000百万円(前期比5.1%増)、営業利益7,650百万円(同5.7%増)、経常利益7,760百万円(同5.8%増)、親会社株主に帰属する当期純利益4,920百万円(同6.5%増)が予想されており、期初予想と変わっていない。セグメント別では、すべてのセグメントで増収増益を予想している。原材料価格の上昇に伴う価格転嫁が進みつつあることから、下半期の業績は回復し、上半期の遅れを取り戻せる見込みだ。売上高で7期連続増収、営業利益で4期連続増益(過去最高)を目指す。

3. 新中期経営計画2021

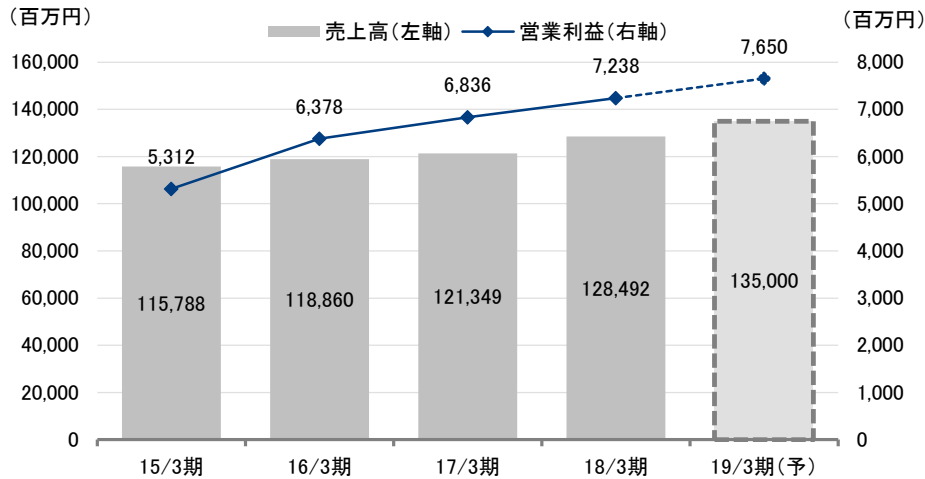
同社は前期に中期経営計画2018が終了したことに伴い、「新中期経営計画2021」を発表している。数値目標としては、2021年3月期に売上高1,500億円(2018年3月期比16.7%増)、営業利益86億円(同18.8%増)、営業利益率5.7%(同5.6%)、ROE9.0%(同8.6%)を掲げている。さらにこの間に、設備投資額150億円(上限)、M&Aに150億円(同)の枠を設定している。コニシグループ各社との連携を強化して、売上高、営業利益ともに過去最高を目指す計画だ。今後の進捗は大いに注目される。

Key Points

- ・国内最大級の接着剤・シーリング材メーカー。向け先は住宅用、産業用、自動車用等幅広い
- ・土木建設事業(社会インフラ、ストック市場の補修・改修工事関連)が拡大中
- ・2019年3月期は全事業で増収増益を目指し、売上高、営業利益は過去最高を達成する見込み
- ・「新中期経営計画2021」の目標は営業利益85億円、ROE9.0%。更なる増配余地も

要約

業績の推移



出所：決算短信よりフィスコ作成

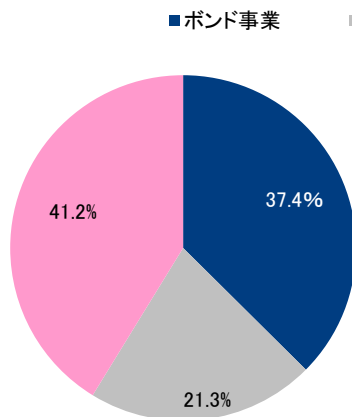
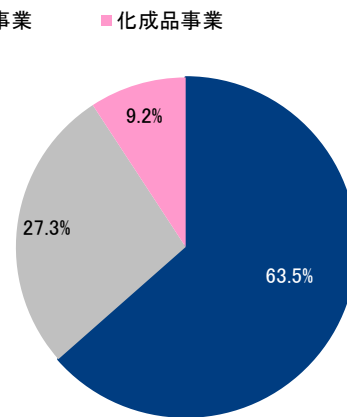
■ 事業概要

国内トップクラスの接着剤・シーリング材メーカー。
 産業用、住宅・建材用、建築・土木用と幅広い製品群をそろえる

1. 主要な事業セグメント

同社の事業セグメントは、2017年3月期までは、ボンド事業、化成品事業（化学品の商社業）、土木建設工事、その他の4部門に分けて開示されていたが、2018年3月期からボンド事業の一部（土木建設用）を土木建設部門に組み込み、新たにボンド、化成品、土木建設、その他の4セグメントとして開示されている。新しいセグメントでの2018年3月期の売上高比率は、ボンド事業37.4%、土木建設事業21.3%、化成品事業41.2%、その他0.1%となっている。セグメント利益ではボンド事業が63.5%、土木建設事業が27.3%、化成品事業が9.2%となっている。化成品事業の利益の比率が低いのは、同事業が仕入販売を行う商社事業であるのに対して、ボンド事業及び土木建設事業は自社で製造・販売・エンジニアリング等を行っているためである。各事業の概要については以下のとおりとなっている。

事業概要

セグメント別売上高
 (2018年3月期:128,492百万円)

セグメント別営業利益
 (2018年3月期:7,238百万円)


注：新しい事業セグメントにて作成
 ※セグメント間取引消去前（かつ「その他」除く）
 出所：決算短信よりフィスコ作成

(1) ボンド事業

ボンド事業では、主に工業用・一般家庭用の各種接着剤、シーリング材及びワックス・両面テープ等の製造販売を国内外で行っている。アイテム数は「ボンド」のブランドが付く商品だけで約6,500アイテムに上り、業界での品ぞろえは国内で群を抜いている。また、子会社サンライズ（株）では主に戸建て用の建築用シーリング材や自動車用シール材・接着剤を製造・販売している。もう一つの子会社ウォールボンド工業（株）（旧矢沢化学工業（株））は壁紙用接着剤の製造販売を行っている。

(2) 土木建設事業

2016年3月期から新しいセグメントとしてそれまでの「その他事業」から分離され、さらに2018年3月期からはコニシ本体に含まれていたボンド事業の一部の製品（主に土木建設用）が組み入れられた。内容は子会社のボンドエンジニアリング（株）、コニシ工営（株）、近畿鉄筋コンクリート（株）で手掛ける工事請負事業とコニシ本体で製造される土木建設用接着剤やシーリング剤が含まれる。さらに2018年7月から、買収した角丸建設（株）も含まれている。工事請負事業は、主に官公庁、鉄道会社、道路公団等から発注された道路、鉄道、トンネル、橋梁などの補修・補強工事を請負うもの。同社の場合は接着剤メーカーとしてのノウハウ、経験を生かした補修・補強工事を専門で行っているのが特色である。

(3) 化成品事業

化成品事業では石油化学製品、合成樹脂、工業用薬品全般、電子機能性材料の仕入販売を行っており、主たる業務は商社的な事業である。同社の根源とも言える事業であるが、利益率は低いので、新しい中期経営計画では引き続き抜本的な改革を推進する計画だ。

(4) その他事業

その他事業は不動産賃貸業。売上高、利益ともに微少であり全体の収益に与える影響は小さい。

事業概要

2. 市場シェアと競合企業

主力製品である合成接着剤においては生産量ベースでの市場シェアは10%強の水準と推計され、ここ数年はわずかながら上昇トレンドにある。また、金額ベースのシェアは12～13%（建設用シーリング材を除く）と推計され、国内では数量、金額ともトップシェアとなっている。

主な競合企業は、一般家庭用ではセメダイン<4999>、住関連用では主にアイカ工業<4206>、セメダイン、(株)オーシカなどがある。建設シーリング材では横浜ゴム<5101>、サンスター技研(株)などと競合する。建設・土木用では、接着剤ではショーボンド化学(株)との競合となるが、実際の工事現場では子会社のボンドエンジニアリングがショーボンド建設(株)と競合する格好となっている。また、工場生産用では昭和電工<4004>、ヘンケルジャパン(株)やオーシカ等が競合大手である。また、エレクトロニクス製品の生産用ではセメダインヤ(株)スリーボンドと競合するが、両面テープまで広げると日東電工<6988>やスリーエムジャパン(株)が競合企業として挙げられる。

3. 特色、強み

同社の特色、強みを要約すると以下ようになる。

(1) ブランド力

同社の最大の強みは「ボンド」の持つ圧倒的なブランド力である。一般家庭向けの「ボンド木工用」から建築用、産業用の「ボンド」まで、老若男女を問わず誰もが「ボンド」の名を知っている。

(2) 製品ラインナップと販売網

前述のように製品ラインナップが豊富なことも同社の特色である。また、幅広い製品ラインナップは企業の収益基盤としての強みでもある。

(3) 接着剤専業としての強みと販売網

前述のように多くの競合企業（セメダインを除く）は接着剤の専門メーカーではなく、化学品メーカーが多い。言い換えれば、競合企業にとって接着剤は本業ではなく1つの事業でしかない。これに比べて同社は接着剤専業メーカーであるため、顧客からの信頼は厚い。これも同社の特色であり、強みだろう。

業績動向

営業利益は微減益だが原材料価格の上昇が主要因

1. 2019年3月期第2四半期の業績概要

(1) 損益状況

2019年3月期第2四半期の業績は、売上高63,023百万円（前年同期比4.5%増）、営業利益2,866百万円（同5.6%減）、経常利益2,972百万円（同2.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,810百万円（同5.7%減）となった。営業利益以下は前年同期比で微減益となったが、期初計画値に対してもやや下回った。全セグメントで増収となり、需要面では比較的好調であったが、原油価格の上昇に伴い原材料価格が上昇したことで減益となった。結果は減益だが、全体としてはまずまずの決算だったと言える。

営業利益の増減要因を見ると、マイナス要因としては連結範囲の変動（角丸建設、KF Instruments India）による減少90百万円、販管費の増加49百万円、原材料価格の高騰417百万円、工場経費の増加58百万円等があったが、プラス要因としては、販売価格の上昇314百万円、工事会社及び化成品の利益率変動65百万円、売上増加による利益増1,369百万円があり、結果として前年同期比で169百万円の減少となった。販管費の増加分のセグメント別内訳では、bond事業が233百万円の増加、土木建設事業が155百万円の減少、化成品事業が26百万円の減少であった。原材料価格の高騰ではbond事業が347百万円、土木建設事業が70百万円であった。販売価格の上昇では282百万円がbond事業であった。

2019年3月期第2四半期の業績

（単位：百万円）

	18/3 期第2 四半期		19/3 期第2 四半期		
	金額	構成比	実績	構成比	前期比
売上高	60,298	100.0	63,023	100.0	4.5
売上総利益	10,440	17.3	10,486	16.6	0.4
販管費及び一般管理費	7,404	12.3	7,619	12.1	2.9
営業利益	3,036	5.0	2,866	4.5	-5.6
経常利益	3,054	5.1	2,972	4.7	-2.7
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,920	3.2	1,810	2.9	-5.7

出所：決算短信よりフィスコ作成

(2) 財務状況

2019年3月期第2四半期の財務状況は、流動資産は前期末比で67百万円減少し75,478百万円となった。主に現金及び預金の増加90百万円、受取手形及び売掛金の減少1,355百万円、たな卸資産の増加156百万円による。固定資産は前期末比で913百万円増加し28,960百万円となったが、主に設備投資による有形固定資産の増加722百万円、のれんの償却による無形固定資産の減少46百万円、投資その他の資産の増加238百万円による。その結果、資産合計は104,439百万円（前期末比846百万円増）となった。

業績動向

負債合計は、44,830百万円（同154百万円増）となったが、主に支払手形及び買掛金の減少268百万円、1年内返済予定の長期借入金を含む短期借入金の減少50百万円、長期借入金の減少419百万円等による。また、純資産合計は、主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加1,301百万円等から59,608百万円（同692百万円増）となった。

貸借対照表

(単位：百万円)

	18/3 期末	19/3 期 第2 四半期末	増減額
現金及び預金	26,847	26,937	90
受取手形及び売掛金	37,554	36,199	-1,355
たな卸資産	6,811	6,967	156
流動資産計	75,545	75,478	-67
有形固定資産	15,781	16,503	722
無形固定資産	1,336	1,290	-46
投資その他の資産	10,928	11,166	238
固定資産計	28,047	28,960	913
資産合計	103,593	104,439	846
支払手形及び買掛金	29,083	28,815	-268
短期借入金等	867	817	-50
流動負債計	38,284	38,868	584
長期借入金	1,206	787	-419
退職給付にかかる負債	788	856	68
固定負債計	6,391	5,962	-429
負債合計	44,676	44,830	154
純資産合計	58,916	59,608	692

出所：決算短信よりフィスコ作成

(3) キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは2,671百万円の収入であったが、主な収入は税金等調整前四半期純利益の計上2,903百万円、減価償却費753百万円、売上債権の減少759百万円、主な支出はたな卸資産の増加698百万円、仕入債務の減少217百万円による。投資活動によるキャッシュ・フローは757百万円の支出であったが、主に有形固定資産の取得による支出1,059百万円等による。財務活動によるキャッシュ・フローは1,317百万円の支出であったが、主な支出は借入金の減少380百万円、自己株式の取得340百万円、配当金の支払い509百万円による。

以上から2019年3月期第2四半期の現金及び現金同等物は前期末比553百万円増加し、26,099百万円の残高となった。

業績動向

キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	18/3 期 第 2 四半期	19/3 期 第 2 四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,992	2,671
税金等調整前四半期純利益	3,043	2,903
減価償却費	951	753
売上債権の増減額 (- 増加)	629	759
たな卸資産の増減額 (- は増加)	-713	-698
仕入債務の増減額 (- は減少)	2,428	-217
投資活動によるキャッシュ・フロー	-3,470	-757
有形固定資産の取得	-535	-1,059
子会社株式の取得	-2,828	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	839	-1,317
借入金の純増減額	1,983	-380
配当金の支払額	-477	-509
自己株式の取得	-623	-340
現金及び現金同等物の増減額	2,333	553
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,626	26,099

出所：決算短信よりフィスコ作成

主力のボンド事業は住関連用や産業資材用を中心に堅調な推移

2. 2019年3月期第2四半期のセグメント別状況

2019年3月期第2四半期のセグメント別業績

(単位：百万円、%)

	18/3 期 第 2 四半期		19/3 期 第 2 四半期		増減額	増減率
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	60,298	100.0	63,023	100.0	2,725	4.5
ボンド事業	23,581	39.1	24,046	38.2	465	2.0
土木建設事業	10,849	18.0	12,063	19.1	1,214	11.2
化成品事業	25,822	42.8	26,861	42.6	1,039	4.0
その他	45	0.1	51	0.1	6	13.3
営業利益	3,036	5.0	2,866	4.5	-170	-5.6
ボンド事業	2,261	-	1,903	-	-358	-15.9
土木建設事業	445	-	623	-	178	39.9
化成品事業	304	-	304	-	0	-0.1
その他	19	-	33	-	14	73.7
(調整額)	3	-	1	-	-	-

出所：決算短信よりフィスコ作成

業績動向

(1) ボンド事業

セグメント売上高は 24,046 百万円（前年同期比 2.0% 増）、同セグメント利益は 1,903 百万円（同 15.9% 減）となった。販売数量増があったものの原材料価格の高騰及び輸送コストの高騰がありセグメント利益は減益となった。業界別の売上高及び状況は以下のものであった。なお 2018 年 3 月期から、コニシ本体の土木建設用接着剤は土木建設事業に組み換えられている。

a) コニシ 一般家庭用：売上高 3,286 百万円（同 2.5% 増）

コンビニエンスストア、100 円均一ショップ、ホームセンター向けが好調に推移し、売上高は前年同期比で増加した。

b) コニシ 住宅関連用：売上高 9,572 百万円（同 4.2% 増）

新築住宅着工件数は横ばいであり市場環境としては必ずしも追い風とは言えなかったが、内装工事用、建築資材製造用は堅調に推移した。床施工用接着剤などで大手ユーザーを獲得したことも増収に寄与した。

c) コニシ 産業資材用：売上高 3,417 百万円（同 1.2% 増）

主な製品は、紙管・製袋用途向け水性エマルジョン形接着剤、パネル用途向けウレタン系接着剤、自動車関連産業向け離型剤、産業用ホットメルト系接着剤などだが、特に以前から拡販に注力してきた紙関連、パネル用、電子材料用などが堅調に推移して増収となった。しかし比較的好調であった保冷車向けは横ばいとなったことなどもあり、計画値に対しては下回った。

d) コニシテープ：売上高 1,576 百万円（同 4.9% 増）

以前は産業用に含まれていたが、順調に売上高が増加したことから、今期より新しいサブセグメントとして切り出された。新規顧客の開拓が進んだこともあり増収を維持した。

e) サンライズ：売上高 4,202 百万円（同 0.2% 減）

コニシルートでの販売は好調であったが、一般戸建て向けが停滞した。特に天災・天候不順の影響もあり 8 月～9 月が不振であった。

f) ウォールボンド工業：売上高 1,271 百万円（同 0.2% 増）

主要製品は壁紙用接着剤であることから、100% が住宅関連である。コニシ本体向け（主に西日本での販売）は比較的好調であったが、東日本での売上高が伸び悩んだ。

業績動向

ボンド事業 業界別売上高推移

(単位：百万円)

	18/3 期 2Q	19/3 期 2Q	(伸び率)
コニシ 一般家庭用	3,206	3,286	2.5
コニシ 住宅関連用	9,182	9,572	4.2
コニシ 産業資材用	3,377	3,417	1.2
コニシ テープ	1,502	1,576	4.9
サンライズ	4,213	4,202	-0.2
ウォールボンド工業	1,268	1,271	0.2
合 計	23,581	24,046	2.0

注：合計にはその他を含める

出所：決算説明資料よりフィスコ作成

土木建設事業では建設用と連結子会社が好調

(2) 土木建設事業

土木建設事業の売上高は12,063百万円(同11.2%増)、セグメント利益623百万円(同39.9%増)と堅調であった。買収した角丸建設の売上高、営業利益が加算されたことも増収増益の要因だが、その他の子会社も堅調に推移した。各子会社やサブセグメントの状況は以下のようであった。

a) コニシ 建設用：売上高 5,344 百万円 (同 3.7% 増)

特に建築用シーリング材が好調に推移した。その結果、この分野ではトップシェアとなったもよう。

b) コニシ 土木用：売上高 904 百万円 (同 0.8% 増)

表面保護・はく落防止工事は堅調に推移したものの、道路床版補強用は前年に大きな工事があったこともあり、前年同期比では減少した。このセグメントも予算を下回ったが、天候の影響もあったようだ。

c) ボンドエンジニアリング：売上高 3,566 百万円 (同 7.5% 増)

インフラ・ストック市場の補修・改修・補強工事等が堅調に推移したことから受注は順調に推移し、増収増益を達成した。

d) 近畿鉄筋コンクリート：売上高 769 百万円 (同 32.0% 減)

売上高は前年同期比では大幅減収だが、完成工事高によるものなので、ほぼ想定内。懸念される結果ではない。通期では問題ない見込み。

e) コニシ工営：売上高 557 百万円 (同 0.6% 増)

前年同期比では微増収だが、ほぼ計画線であり、順調と言える。

f) 角丸建設：売上高 1,159 百万円 (前年比較なし)

2017年9月末から連結に加えられた。営業利益では約38百万円寄与している。

業績動向

土木建設事業 業界別売上高推移

(単位：百万円)

	18/3期2Q	19/3期2Q	(伸び率)
角丸建設	-	1,159	-
コニシ工営	554	557	0.6
近畿鉄筋コンクリート	1,131	769	-32.0
ボンドエンジニアリング	3,318	3,566	7.5
コニシ 土木用	896	904	0.8
コニシ 建設用	5,154	5,344	3.7
合計	10,849	12,063	11.2

出所：決算説明資料よりフィスコ作成

化成品事業では塗料、化学工業向けが低調ながら、自動車、電子・電機が伸びをけん引

(3) 化成品事業

化成品事業の売上高は26,861百万円(同4.0%増)、セグメント利益は304百万円(同0.1%減)となった。主な業界別売上高は以下のようになった。

a) 自動車：売上高8,483百万円(同8.7%増)

自動車のIT化が進み、電子部品関連が好調。新商材も増収に寄与した。

b) 化学工業：売上高3,742百万円(同8.3%減)

前期に比較的好調であった樹脂原料が低調となり前年同期比では減収となった。

c) 電子・電機：売上高3,400百万円(同15.3%増)

半導体封止材、電子回路基板向けが好調に推移し大幅増収となった。

d) 塗料：売上高2,112百万円(同3.9%減)

国内向け建築用、自動車補修用塗料が低調だった。同社が商品を納めているのは2番手グループの塗料メーカーが多いため、これらの需要先自体が業界内においてやや低迷していることが要因。新しい商品の開発を進めると同時に、大手を中心とした新たな顧客(口座)の開拓が重要課題だ。

e) 丸安産業：売上高6,624百万円(同7.4%増)

主力のコンデンサー向け電材や薄膜用(主にレンズ用等)が好調に推移して増収となった。

業績動向

化成品事業 業界別売上高推移

(単位：百万円)

	18/3期2Q	19/3期2Q	(伸び率)
自動車	7,805	8,483	8.7
化学工業	4,080	3,742	-8.3
電子・電機	2,949	3,400	15.3
塗料	2,197	2,112	-3.9
その他	1,793	1,890	5.4
丸安産業	6,167	6,624	7.4
合計	25,822	26,861	4.0

出所：決算説明資料よりフィスコ作成

(4) その他事業

不動産賃貸業が中心。売上高 51 百万円 (同 13.3% 増)、セグメント利益 33 万円 (同 73.7% 増) であったが、金額が少ないため全体に与える影響は小さい。

■ 今後の見通し

2019年3月期は7期連続増収、4期連続営業増益を目指す

1. 2019年3月期の業績見通し

2019年3月期の業績は、売上高 135,000 百万円 (前期比 5.1% 増)、営業利益 7,650 百万円 (同 5.7% 増)、経常利益 7,760 百万円 (同 5.8% 増)、親会社株主に帰属する当期純利益 4,920 百万円 (同 6.5% 増) が予想されており、期初予想と変わっていない。上半期の結果は営業減益となったが、原材料価格の上昇が主要因であり、下半期に入ってから製品価格への転嫁が進んでいることから、通期では期初予想を達成する見込み。売上高で7期連続増収、営業利益で4期連続増益 (過去最高) を目指す。またセグメント別では、すべてのセグメントで増収増益となる見込みだ。

今後の見通し

2019年3月期の業績見通し

(単位：百万円、%)

	18/3期		19/3期(予)		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
売上高	128,492	100.0	135,000	100.0	5.1
ボンド事業	48,086	37.4	50,550	37.4	5.1
土木建設事業	27,344	21.3	29,550	21.9	8.1
化成品事業	52,959	41.2	54,800	40.6	3.5
その他	101	0.1	100	0.1	-1.6
営業利益	7,238	5.6	7,650	5.7	5.7
ボンド事業	4,559	-	4,800	-	5.3
土木建設事業	1,959	-	2,110	-	7.7
化成品事業	662	-	680	-	2.6
その他	52	-	60	-	13.8
(調整額)	3	-	-	-	-
経常利益	7,331	5.7	7,760	12.3	5.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,619	3.6	4,920	7.8	6.5

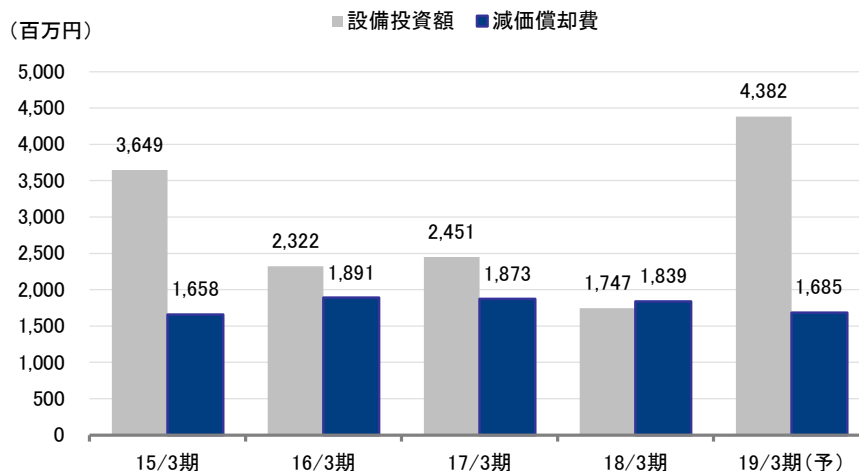
出所：決算短信、決算説明資料よりフィスコ作成

2. 設備投資額と減価償却費

2019年3月期の設備投資額は、後述する新中期経営計画に基づき4,382百万円（前期は1,747百万円）と大幅増が予定されている。主な内容は、自動ラック式コンテナ倉庫（滋賀）、自動ラック式危険物倉庫（栃木）、サンライズ小山物流センター（栃木）、壁装用接着剤製造設備の新設（滋賀）、Konishi Lemindo Vietnam（ベトナム）の生産能力増強、新基幹システムの導入などとなっている。

減価償却費は1,685百万円（前期は1,839百万円）の見込みで、減少が見込まれる。

設備投資額と減価償却費の推移



出所：決算説明資料よりフィスコ作成

■ 中長期の成長戦略

「新中期経営計画 2021」の目標は営業利益 86 億円、ROE9.0%

1. 新中期経営計画を発表

同社は2018年3月期を最終年度とする「中期経営計画 2018」を発表していたが、その目標は2018年3月期に売上高 136,000 百万円（2015年3月期比 17.5% 増）、経常利益 7,400 百万円（2015年3月期比 35.4% 増）、経常利益率 5.4%（2015年3月期実績 4.7%）、ROE8.0%（2015年3月期実績 6.7%）であった。売上高、経常利益はやや未達であったが、経常利益率、ROEの目標は達成した。

前回の中期経営計画が終了したのを受けて、同社では今回新たに「新中期経営計画 2021」を発表した。定量的目標は、最終年度である2021年3月期に売上高 1,500 億円（2018年3月期比 16.7% 増）、営業利益 86 億円（同 18.8% 増）、営業利益率 5.7%（同 5.6%）、ROE9.0%（同 8.6%）となっている。コニシグループ各社との連携を強化し、売上高、営業利益ともに過去最高を目指す計画だ。さらに今回は、この期間で設備投資 150 億円（上限）、M&A150 億円（上限）の枠を設定している。

「新中期経営計画 2021」の数値目標

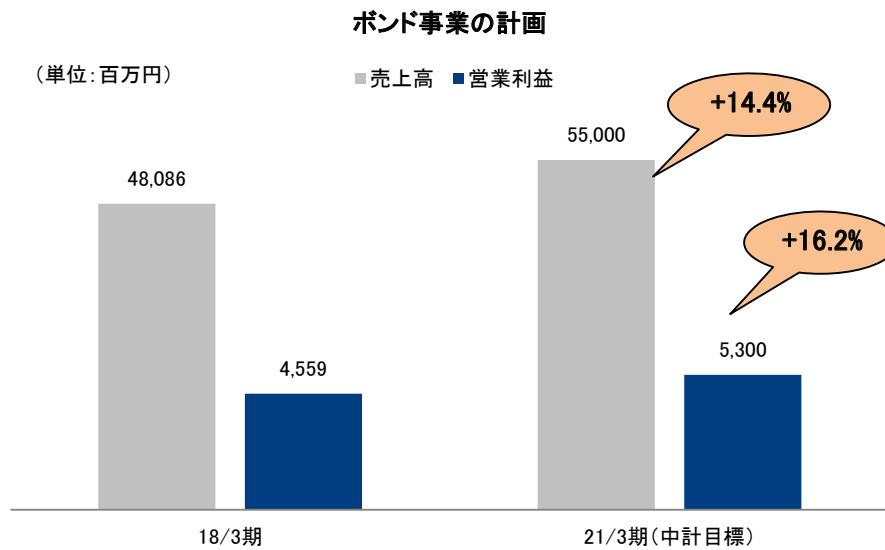
	2021年3月期	伸び率	2018年3月期
売上高	1,500 億円	(+16.7%)	1,284 億円
営業利益	86 億円	(+18.8%)	72 億円
営業利益率	5.7%		5.6%
ROE	9.0%		8.6%
設備投資額	150 億円 (上限)		
M&A	150 億円 (上限)		

注：「伸び率」は2018年3月期比
 出所：決算説明資料よりフィスコ作成

2. セグメント別目標

(1) ボンド事業

関係会社との連携を深めボンドグループ全体で拡販を図り、売上高は55,000百万円（2018年3月期比14.4%増）、営業利益5,300百万円（同16.2%増）を目指す。重要施策として以下の3つを遂行する。



出所：決算説明資料よりフィスコ作成

a) 関係会社との連携強化

サンライズ及びウォールボンド工業と販売・開発面での連携を強化する。具体的にはコニシルートでの販売を強化し、インテリア・リフォーム分野へ拡販を図る。

b) 産業資材分野の強化

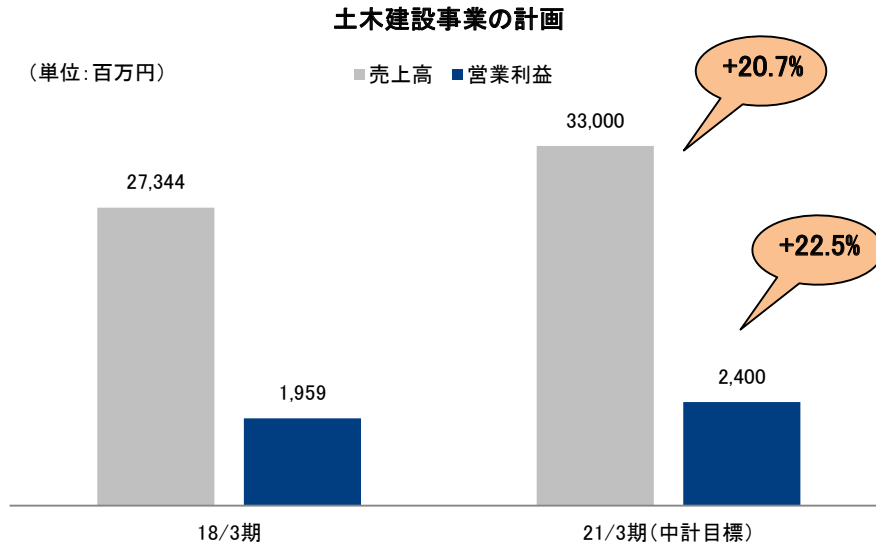
紙関連・パネル用途の更なる拡販、電子材料向け製品の育成を図る。これらを次の柱となる製品に育成する。

c) M&A による事業拡大

相乗効果が高いと判断される企業への積極的な M&A を実施する。

(2) 土木建設事業

社会インフラ・ストック市場の補修・改修工事関連の取込みを強化して、売上高 33,000 百万円（同 20.7% 増）、セグメント利益 2,400 百万円（同 22.5% 増）を目指す。重要施策として以下の3つを遂行する。



出所：決算説明資料よりフィスコ作成

a) 関係会社間の連携強化

コニシ及びボンドエンジニアリングとの協業で、新製品・新工法を開発する。また角丸建設の土木分野（現在 30% 程度）への参入を推進するため、ボンドエンジニアリングとの連携を強化する。

b) シーリング材のシェア拡大

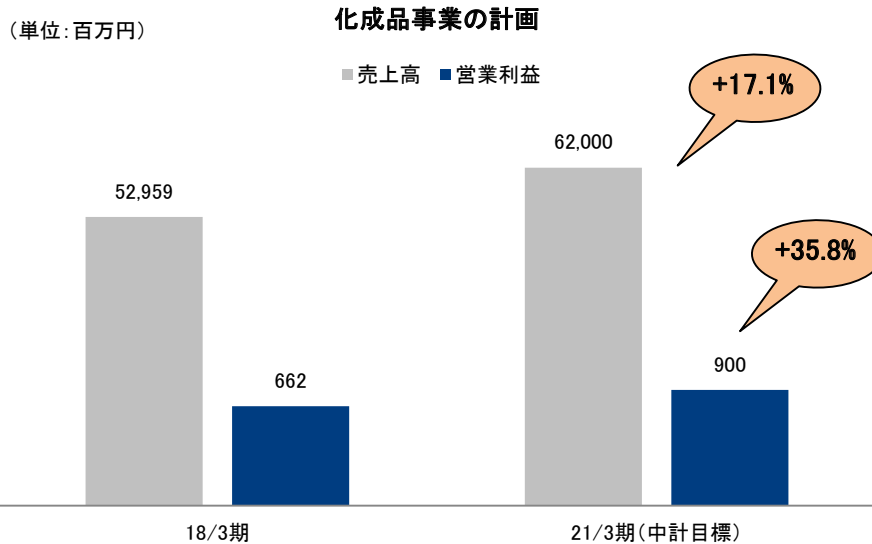
比較的他社のシェアが高い「新築分野」を強化するため、「開発グループ」を設置し、新築分野の開拓を強化する。これにより、シーリング材でのトップシェアを目指す。

c) M&A による事業拡大

土木建設工事や土木建設材料などに関連する企業への積極的な M&A を実施する。

(3) 化成品事業

構造改革の推進を強化し、売上高 62,000 百万円 (同 17.1% 増)、営業利益 900 百万円 (同 35.8% 増) を目指す。重要施策としては以下の 2 つを遂行する。



出所：決算説明資料よりフィスコ作成

a) 材料科学研究所へテーマ創出

前期に「基礎研究所」を廃止し、新たに「材料科学研究所」を設立した。この研究所では、化成品部門からのテーマを受けて接着剤にとらわれない開発を推進する。また大学との共同研究を行い、高付加価値製品の開発を目指す。

b) 新規商材、新規顧客の開拓を強化

成長分野（自動車、電子電機）への深耕開拓を進める一方で、新規商材（害虫忌避商材など）の拡販を強化する。

3. 主要な投資案件

(1) 製造設備増強 (約 2,500 百万円)

- a) Konishi Lemindo Vietnam：製造釜の増設（生産能力 200t → 400t/月）。これにより東南アジアエリアの販売を強化
- b) ウォールボンド工業：壁装用接着剤製造設備の新設（滋賀）。西日本エリアの生産拠点にする
- c) サンライズ：栃木工場（シーリング材）新設。東日本エリアの生産拠点にする

(2) 関東営業拠点の再構築 (約 2,000 百万円)

浦和工場跡地に浦和事業所（仮称）を新設。東京本社から大部分を移管する予定（2019年秋頃完成予定）。

(3) 物流機能の充実 (約 1,800 百万円)

自動ラック式コンテナ倉庫の建設 (滋賀)、自動ラック式危険物倉庫の建設 (栃木)、サンライズ小山物流センター (栃木) の建設などを予定している。

(4) 製品運送の自社配送化 (約 300 百万円)

KB LINE (ボンド物流連結子会社) を活用して、物流センター間の配送、グループ各社の製品配送を開始する。これによって今後、ボンド製品の自社配送化を推進する。

(5) 新基幹システムの導入 (約 700 百万円)

販売・生産・物流間システムの効率化と顧客サービスの向上を目指す。

■ 株主還元策

配当性向 20% を目途に安定配当を目指す。 今後は業績次第で増配の可能性もありそうだ

同社は 2017 年 3 月期より、毎期の業績等を勘案しながら連結配当性向 20% を目安に利益を還元するとともに、継続的な配当を実施するとしている。2017 年 3 月期の年間配当を 24 円とし、2018 年 3 月期には記念配当 2 円を加えて年 26 円へ増配した。また、2019 年 3 月期の年間配当は、現時点では 26 円が計画されているが、予想利益が達成された場合には、配当性向は 19.3% になってしまうため、今後の業績次第では、増配の可能性も考えられるだろう。

一方で 2015 年 11 月に 1,366 千株 (総額 3,046 百万円、1 株当たり 2,230 円) の自社株買いを実施したことに続き、2017 年 8 月 23 日付で 350 千株の自社株買いを実施した。さらに 2018 年 8 月 22 日付で新たに 200 千株の自社株買いを実施した。このような株式市場、投資家 (株主) に対する同社の姿勢は評価に値すると言えるだろう。

重要事項（ディスクレーマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ